

# グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)

No.1145 2015年8月号

## 国有林モニター勉強会開催

7月24日、徳島県三好市祖谷地区において、第1回国有林モニター勉強会を開催しました。 【詳細は3頁】



祖谷川地区の地すべり防止工事の説明  
(対岸の現地と見比べながらの勉強会)

# 四国森林管理局長交代

## ～大山誠一郎局長着任会見～

〔総務課〕



がうかがえました。

大山局長からは、『四国は森林率が高く、特に高知県は森林率が日本一（84％）となっている。』

七月二八日付けの人事異動に伴い八月七日に、大山誠一郎局長の着任記者会見を行いました。

記者会見では、在 high のテレビ、新聞社各社の取材を受けマスコミの関心の高さ

その様な中で、私ども国

有林が経営する森林をきちんと整備・管理して水源涵養、山地災害の防止などの公益的機能をより高度に発揮させることは当然のこと

であり、特に現下の重要課題である林業の成長産業



大山誠一郎四国森林管理局長着任会見

イナミツクな動きをしていると実感している。このような川下に、どのように安定的に材を供給していくかが非常に重要な課題である。大きなウエイトを占

め、あるいはそれを通じての地方創世、山村振興に向けて、微力ながら力を注いで行きたい。

また、川下では、森林組合連合会の新事務所の建設に当たってのCLTの使用や、木質バイオマス発電、大型製材工場の稼働等、ダ

また、川下では、森林組合連合会の新事務所の建設に当たってのCLTの使用や、木質バイオマス発電、大型製材工場の稼働等、ダ

昭和五九年四月

農林水産省食糧庁入庁  
(管理部企画課)

平成三年一月

林野庁林政部林政課課長  
補佐 (総務班担当)

平成一六年七月

文部科学省科学技術・学術政策局政策課資源室長

平成二四年四月

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構理事 (総務担当)

平成二六年四月

農林水産省北陸農政局局長

平成二七年七月

現職

# 「国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

七月二四日に徳島森林管理署管内で、本年度第一回

目の国有林モニター勉強会を開催しました。当日は、天候にも恵まれ、四国四県から国有林モニター一三名

が参加されました。

開会にあたり木村業務管理官から、「実際に治山事業現場や森林の状況を見ていただき、国有林や森林についての理解が深まる勉強会になれば幸いです。」との挨拶がありました。



排水トンネルの状況を見学

午前中は、当管理局が行っている「木の文化」を支える取組の例として「祖谷のかずら橋」を見学しました。徳島森林管理署長より橋の架け替え用資材「シラクチカズラ」について、安定的な供給や資源育成等の取組の説明を行った後、

実際に橋を渡りました。



国有林モニター勉強会参加者

午後からは、治山事業実施箇所において、国が直轄事業で行った地すべり対策工事について、徳島署の治山担当者から事業の概要や工事の必要性などの説明を行い、地すべりの大きな要因となる地下水を除去する集水井（しゅうすいせい）や排水トンネルの施工状況

を見学しました。  
モニターの方々は、各見学箇所や移動中の説明にも大変熱心に聞き入り、二ホンジカの食害等、見学以外のことも活発に質問や意見を交わすなど国有林や森林・林業について理解を深めていました。  
※国有林モニター制度  
開かれた「国民の森林」の推進に向け、実際の事業地の見学等を行いながら国有林事業に対する理解を深めていただくとともに、国有林について幅広く国民の意見・要望をいただき、国有林野の管理経営に役立つことを目的に設けている制度。

## 国立大学法人高知大学農学部との連携協定について

### 締結式を実施

〈企画調整課・技術普及課〉

七月二七日、当森林管理

局と国立大学法人高知大学農学部（以下、大学）との間で連携と協力に関する協し、浅川京子局長（当時）

連携協定締結式



と石川勝美高知大学農学部  
長による調印式を行いました。  
た。

再生、そしてそれらを支え  
る循環型社会の形成に資す  
る調査研究及び人材育成等  
の推進を図ることを目的と  
しており、「森林資源の有  
効活用」と「森林資源を基  
盤とする循環型社会の形  
成」などが連携、協力事項  
として謳われていま  
す。

良い研究の場として利用し  
ていただければと考えてい  
ます。  
協定締結後、記者から  
の「今回の協定の双方のメ  
リットは何か」との質問に  
対して、浅川局長は、『今  
後の森林・林業を支える担  
い手の育成、人材育成が必  
要不可欠な中、国有林の  
フィールドを使って学生の  
方々に研究・研修をしてい  
ただき、将来的に高知の主  
要産業である林業を担って  
いただければと考えてい  
る。今回、協定を結ぶ大学  
と連携・協力することがで  
き、将来の人材育成・確保  
という点でメリットがある  
と考えている。



浅川四国森林管理局長（左側）と  
石川高知大学農学部長（右側）の  
連携協定締結式

学の有する高度な知  
識を共有させていた  
だければありがたい  
と思う。』と今後に向  
けた意欲を表明しま  
した。  
一方、大学は、『農  
学部には森林科学の分  
野があるが、実習を  
行う演習林では、限  
られたことだけしか  
提供できない。

今後、国有林を  
フィールドとして連  
携した取組を行うこ  
ととしており、学生  
に高性能林業機械に  
よる伐木造材、架線  
系作業システム、路  
網作設等国有林で  
行っている事業を肌  
で感じてもらうより

また、木質バイオマス、  
シカ食害等従来の林業技術  
の枠を越えた話もできて  
おり、このような新しい  
ニーズや課題に対応するた  
め、外部の高度な知見をい  
ただきたいと考えている。  
そういった点からも高知大  
がつくと考えている。

また、木質バイオマス、  
シカ食害等従来の林業技術  
の枠を越えた話もできて  
おり、このような新しい  
ニーズや課題に対応するた  
め、外部の高度な知見をい  
ただきたいと考えている。  
そういった点からも高知大  
がつくと考えている。

四国森林管理局は、高知  
県内を中心として非常に広  
大な森林及び多様な森林の  
生態系を有しているのです  
のフィールドを活用させて  
いただくことにより、学生  
に様々な森林に対応する力  
がつくと考えている。

また、大学では、様々な技術、基礎技術を培っていただきますが、それを実践・応用し、検証して行くためには、実際に事業を実施している方と協力しながら過去を確かめ、更に次へと繰り返す必要がある。このような意味で連携・協力のメリット

がある。』と大学側の考えを説明されました。当森林管理局にとって、大学との協定は、昨年の愛媛大学に次いで、二例目となりました。今後は、この協定の目的に添った様々な取組を行っていくこととされています。

## 各地のたより



### 「木工教室を開催」

#### 〈ふれあい推進センター〉

六月一六日、高知県宿毛市立小筑紫小学校で、五年生一四名を対象に、糸のこ盤を使った木工教室を行い

ました。

始めに、「木材の特徴」

と題して、「木の長所は軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度や温度を調整すること。短所として、性質がすべて同じでないこと、シロアリ等の被害を受

けやすいこと。」等について説明を行い、続けて、木の重さの比較実験も併せて行いました。



五年生作品製作中

次に、糸のこ盤の使用法や注意点を説明した後、あらかじめ準備した板を使用し、事前の希望に添った木工作品の切り抜き作業

を行いました。完成した作品を見せ合って、みんなとてもうれしそうな表情でした。

に取り組んできました。その後、色塗りやボンドで接着して完成させていきました。ほとんどの児童が休憩時間も忘れるほど夢中になって、約二時間半の間作品製作に取り組

みを行いました。完成した作品を見せ合って、みんなとてもうれしそうな表情でした。また、七月八日には、同

後日、小学校から送られた。

「糸のこ盤を使った工作は初めてだったので、板をまわしながら切るところが難



一・二年生作品製作中

じく宿毛市立小筑紫小学校  
一年生一一名と二年生八名  
を対象に、カブトムシ、ク  
ワガタムシの木工作品製作  
用キット一式を準備して、  
木工教室を開催しました。

作り方を説明した後、児  
童達が各キットをボンド  
で板に貼り付けて、約三〇  
分程でカブトムシとクワガ  
タムシが見事に完成しまし  
た。

わずかな時間で実施した  
木工教室でしたが、木と  
ふれあってもらい、完成後  
にはみんなに「上手にでき  
た。」「楽しかった。」「また  
作りたい。」と、とても喜  
んでいました。

### 「年間を通じた 森林環境学習」 〈ふれあい推進センター〉

六月二十九日、愛媛県松野  
町立松野西小学校の四年  
生二五名を対象に森林環境  
学習を実施しました。今回



校庭の樹木学習の様子

は、森林の働きなどの学習  
と樹木名板作製に対する支  
援の要請を受け、校庭にあ  
る樹木の名前や特徴を記し  
た、樹木名板や立て札を製  
作・設置して森林への関心  
を持つってもらうことを目的  
にしています。

最初に、当センター  
の活動についてふれ  
た後、下敷き「森林  
の大切な働き」を配  
布して、日常生活を  
送る上で、大切な自  
然の一つである森林  
の働きについて説明  
しました。

次に、校庭で行っ  
た樹木学習では、  
三四種の樹木につい

て学習とヒノキの樹木名板  
の作製を行いました。ヒノ  
キの樹木名板の作製では、  
ポスターカラーで科名と和  
名を書き、余白には思い思  
いのイラストを描いて完成  
させました。

後日、担任の先生から、  
「子供達に渡した樹木図鑑  
の資料ですが、みんな、大  
事なところなどに線を引い  
たりして、真剣に取り組ん  
でいたようでした。」と感  
想をお聞きしました。

七月九日には、同じく、  
四年生二五名が、二回目の  
森林環境学習として木工教  
室を行いました。

木材は軽くて丈夫なことや  
加工しやすいことから、い  
ろいろな生活用品に使われ  
ていることやきちんと手入  
れをすれば千年以上もの耐  
久性のある建物もできるこ  
となど、木の良さについて  
説明しました。続いて、世  
界で一番重い木（リグナム  
バイタ）と世界で一番軽い  
木（バルサ）の実物を使っ  
て重さの比較実験も行いま  
した。

次に、刃物や道具を使っ  
ての自由製作です。怪我を  
しないよう実演しながら、  
道具の使用方法や注意点に  
ついて説明した後、児童達  
は、サクラ、ミズメ、ヒメ  
シヤラなどの木の枝を使っ

て木工作品づくりに挑戦しました。

最初は慣れないノコギリやナイフ等を使つての作業に苦労していた児童もいましたが、一つ出来上がる

の作品を作る児童もいました。

また、木目や樹皮をうまく使って作品を作る児童もおり、手軽に自分のオリジナルができることで夢中で取り組み、あつという間に過ぎた三時間でした。

林の大切さ、木材利用などについての理解を深めてもらいたいと考えてます。



七月七日、高知県土佐清水市立中浜小学校で、全校生徒一八名を対象に木工教室を開催しました。

最初に、材料となる「木材の特徴」について説明しました。

最初、材料となる「木材の特徴」について説明しました。

ました。

木材は、古くから私たち日本人の生活になくてはならないもので、豊かな森林にめぐまれた日本では、木材を簡単に手に入れること

ができて、たくさん木材を利用して「木の文化」を創ってきました。木材には優れた性質（長所）や欠点（短所）があり、木材を上手に使う工夫をして、色々な物や様々なところに木材を使っていることについて説明しました。

その後、日本で一番軽い木（桐）、世界で一番軽い木（バルサ）と世界で一番重たい木（リグナムバイタ）について説明し、世界で一番軽い木と重たい木の二つの重さを比較する実験を、天秤ばかりを使って行いました。実験結果、答えは一センチ角のバルサ九個と一センチ角のリグナムバイタ一個が同じ重さでしたが、ちよつとした数当てゲームにみんな歓声をあげていました。



木工教室の様子

木工教室では、二〜三年生は、あらかじめ当センターが準備した板を使用して、事前の希望に添った木工作品を糸のこ盤で先に切



木工教室の様子

二学期からは、「空飛ぶ種子」や「土壌浸透実験」、そして、「炭焼き体験」や「八面山登山」の森林環境学習も実施する予定です。これらの年間活動を通して、森

その後、日本で一番軽い木（桐）、世界で一番軽い木（バルサ）と世界で一番重たい木（リグナムバイタ）について説明し、世界で一番軽い木と重たい木の二つの重さを比較する実験を、天秤ばかりを使って行いました。実験結果、答えは一センチ角のバルサ九個と一センチ角のリグナムバイタ一個が同じ重さでしたが、ちよつとした数当てゲームにみんな歓声をあげていました。